

今年も夏休みの旅行の話から始めます。台風を避けながら、広島や姫路に出かけてきました。広島一の繁華街である本通りのアーケードにも、世界遺産の姫路城にも大勢の人が詰めかけ、外国人観光客の姿も数多く見かけました。猛暑でマスクは息苦しいからということもあるのでしょう。混雑の中、すれ違う人の8割がたはノーマスクで、それを見ると、4年に及ぶコロナとのつきあひもいよいよ終息するのではないかなと、胸のつかえが取れるような、開放感というか、晴れやかな気持ちになりました。牧南生の皆さんも多感な青年期のかかなりの時間、感染予防、マスク生活で、自由にならない我慢の日々を過ごしてきたことと思いますが、そろそろ活動の範囲を広げ、自粛していたことにも積極的に挑戦し、あきらめかけていた夢の実現に向けて動き出すこともできるのではないのでしょうか。調子に乗って羽目はずせ、とけしかけているわけではありません。しかし、おそらくもうコロナだからという限界はなくなります。我慢して小さくなっている必要はありません。

さて次は、夏休み中にした読書の話をしてします。シジュウカラという鳥がきちんとした文法を備えた鳴き声、すなわち言葉を操って、群れの仲間と様々なコミュニケーションを取っていることを発見した鈴木俊貴さんという人がいます。一年の大半を森の中で過ごし、丹念な観察と実験によってシジュウカラのさえずりを解読し、常識を覆す論文を発表したことで、今世界中から注目を集めている研究者です。皆さんは聞いたことがありますか。その鈴木さんと日本の霊長類とくにゴリラの生態研究の第一人者、京都大学の山極寿一氏が対談した『動物たちは何をしゃべっているのか?』という本が8月に出版されました。学問としては動物行動学という理系の分野になりますが、二人の対談は動物の生態から逆照射される人間＝ヒトという種の本質がどこにあるか、特にヒトが言葉を獲得できたのはなぜか、ヒトのコミュニケーションの原点はどこにあるかに、対談の話題は常に戻ってきます。ですから、むしろ文系の人にもぜひ読んでほしい本です。

二人によると、鳥は、飛び回りながらも音を発し聞くことができるため、聴覚によるコミュニケーションを主として進化してきたのに対し、サバンナで進化し飛ぶことができなかつたヒトの祖先は、鳥と違って聴覚よりも視覚を重視したコミュニケーションを行い進化してきたそうです。飛べない代わりに、2足歩行で自由になった両手を使ったジェスチャーと豊かな表情とで、相手との意思疎通を図る。人間同士のコミュニケーションの本質や原点は非言語コミュニケーションにあるのではないかと、鳥と比較して鈴木さんは言います。ヒトはその後、音声言語そして文字言語を使うようになり、目の前にある物事にとどまらず、目の前にないこと、過去の事柄や空想や仮定で組み立てた事柄まで扱う知性を獲得し、高度な文明を築き上げるに至るわけですが、文字を盛んに使い出してから現在までの歴史はたかだか五千年程度、それ以前のヒトとしてのコミュニケーションは、長い進化の間ずっとジェスチャー、表情、次に音声言語によって行われてきたのです。

文明を生み出す文字という強力なツールを発明した人間は、今度は逆に、文字によるコミュニケーションに閉じ込められてしまっていると、二人は警鐘を鳴らします。対面しながら表情やちょっとしたしぐさ、話す言葉の抑揚など言葉以外のいろいろな情報も頼りにしつつ相手に共感する力が衰え、今やコミュニケーションはもっぱら SNS で、しかもその文字数もごく短いやり取りのみです。メールで絵文字や顔文字が使われるのは、文字言語だけでは感情がそこに乗らないからです。これでどうやって自分の本当に言いたいことを伝えたり、お互いに分かり合ったりできるのでしょうか。実はここ1万年の間にヒトの脳

の大きさは逆に少しずつ縮んでいるそうです。なぜだと思いますか。

話を最初のノーマスクの話に戻しましょう。学校の中でも少しずつノーマスクが普通になってきています。隣の人がマスクをしていなかったら、ちょっとお互いに向き合って顔を見合わせてみましょう。マスク越しの関係が長く続いたので、顔を見合わせるのも少し恥ずかしい気がするかもしれませんね。友達はどんな表情をしていますか。半分戸惑いながらきつと笑顔を見せてくれているでしょう。言葉で話すよりもむしろそれだけで安心するということがよくあります。学校祭の準備について LINE で事務連絡だけしていてもはかどらないかもしれません。大事なことは、意見がぶつかっても、対面でお互いの表情を見ながらじっくり話をしましょう。面と向かって話すのは苦手という人は、うまく言えなくてもいいから、身振り手振りも交えながら言いたいことを伝えてみましょう。コロナの間しなかったからと言ってそのままにせず、大事なことから努めて復活させるべきだ、これが本を読み通しての私の感想でした。

最後に、いよいよ第44回の牧南祭が近づいてきました。毎年工夫を凝らした、楽しい発表を披露してくれてありがとう。今年の文化祭には、見学の中学生をお迎えすることになっています。外部の人にも発表が伝わるよう、一層質の高い発表を工夫してくれるものと期待しています。ここでは少し別のお願いをしておきたいと思います。中学生と今年は保護者も大勢来校されると思います。生徒の皆さんにはお客さまを気持ちよくお迎えするよう、心構えをお願いします。文化祭準備が整ったら、発表場所の清掃、整頓をしましょう。階段や廊下にごみなどが落ちていないように、気が付いたら拾うようにしましょう。教室棟の男子トイレと、本館棟のトイレにはスリッパが備えてあります。次に入る人が気持ちよく使えるよう、スリッパは後ろ向きに脱いでそろえて出ましょう。そして応対は相手の顔を見て笑顔で。牧南祭そしてそれに続く2学期における諸君の頑張りに期待して2学期始業式の式辞とします。